

2017年、iDeCoのスタート、NISA4年目のスタート!  
2016年12月はNISAの既存投資家も新規投資家も  
ネット証券の投資家も総じてグローバル株を志向!!

商品企画部 松尾 健治  
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 2017年、iDeCoのスタート、NISA4年目のスタート!

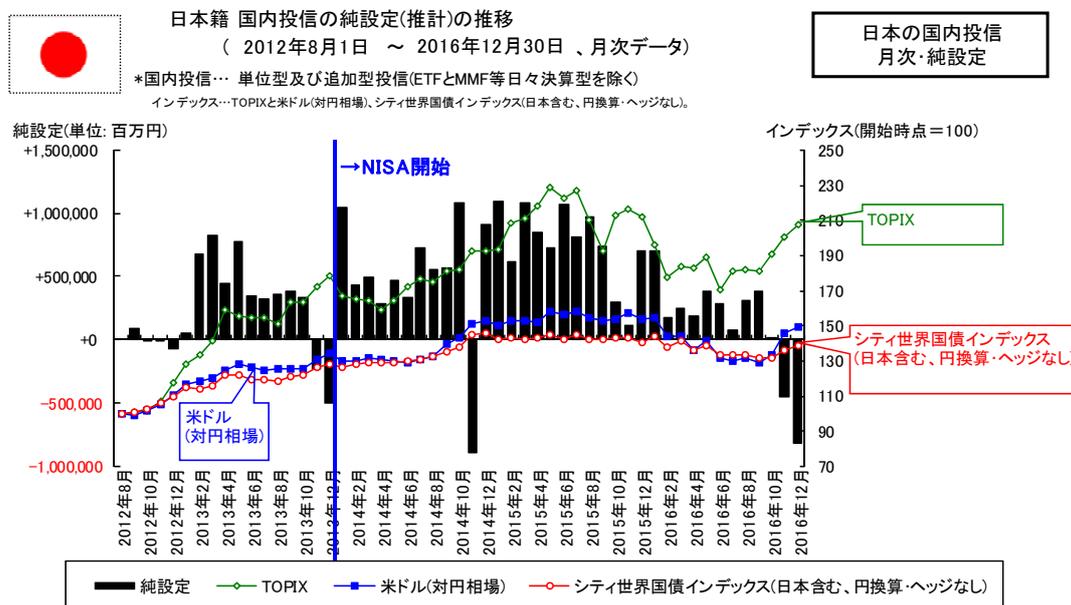
2017年1月から個人型確定拠出年金(愛称: iDeCo/イデコ)にほぼ全ての現役世代が加入出来る様になり、メディアを始め大きく取り上げられ、iDeCoを始めようとする人も多いかもしれない。iDeCoへの関心が高まる中、同様に税制優遇のある少額投資非課税制度(愛称: NISA/ニーサ)と、どう使い分けて利用するべきか悩んでいる人もいそうだ。



**NISAは既に約1030万口座と10人に1人が口座を開設、実際に投資が行われた口座は622万口座と、利用者は600万人を超える**(2016年6月末及び9月末時点の金融庁及び日本証券業協会公表の統計~URLは後述[参考ホームページ])。引き続きNISAの投資を考える人にとってはもちろんだが、2017年からiDeCoで投資を始めようとする人にとって、まずはこれまでのNISAで、どの様な投資がされたかを見る事が重要な情報だろう(その後のiDeCoとNISAの使い分けは2016年6月6日付日本版ISAの道 その143も参照~URLは後述[参考ホームページ])。ぜひ、NISAの最新動向を参考にしてほしい。

NISAの投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※1参照)で代替する事とする。投信の投資動向を見るのはNISAの総投資額の61.7%が投信(ファンド)と、投信への投資が中心だからである(2016年6月末時点、金融庁公表資料~URLは後述[参考ホームページ])。

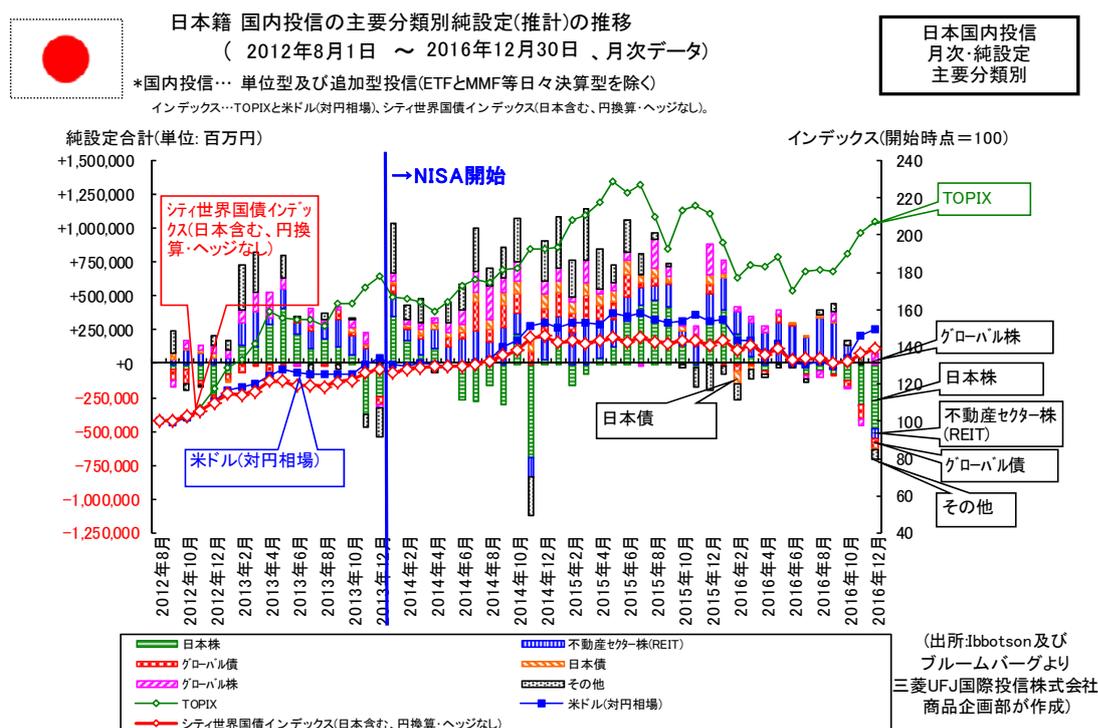
まずNISAの既存投資家を示す投信全体の純設定は2016年12月に6096億円と、2年ぶりの純流出となった前月に続く資金純流出だった。12月は前月(-4524億円)から純流出が拡大、2014年11月(-8920億円)以来2年1カ月ぶりの大きさである。



(出所: グループ「バーク・Ibbotson」より三菱UFJ国際投信株式会社商品企画部が作成)

## 2016年12月にNISAの既存投資家はグローバル株を志向

投資対象(主要分類)別で見ると、投信全体が大きく純流出の中、**2016年12月に最も純設定の大きかったのは、グローバル株、アジア株(除く日本)、アセットアロケーション慎重型、インド株、中国株**だった(下記グラフ参照 \*主要分類…モーニングスター分類で2016年12月末の純資産の大きい上位5分類。アジア株、アセットアロケーション、インド株、中国株は「その他」に含まれる)。

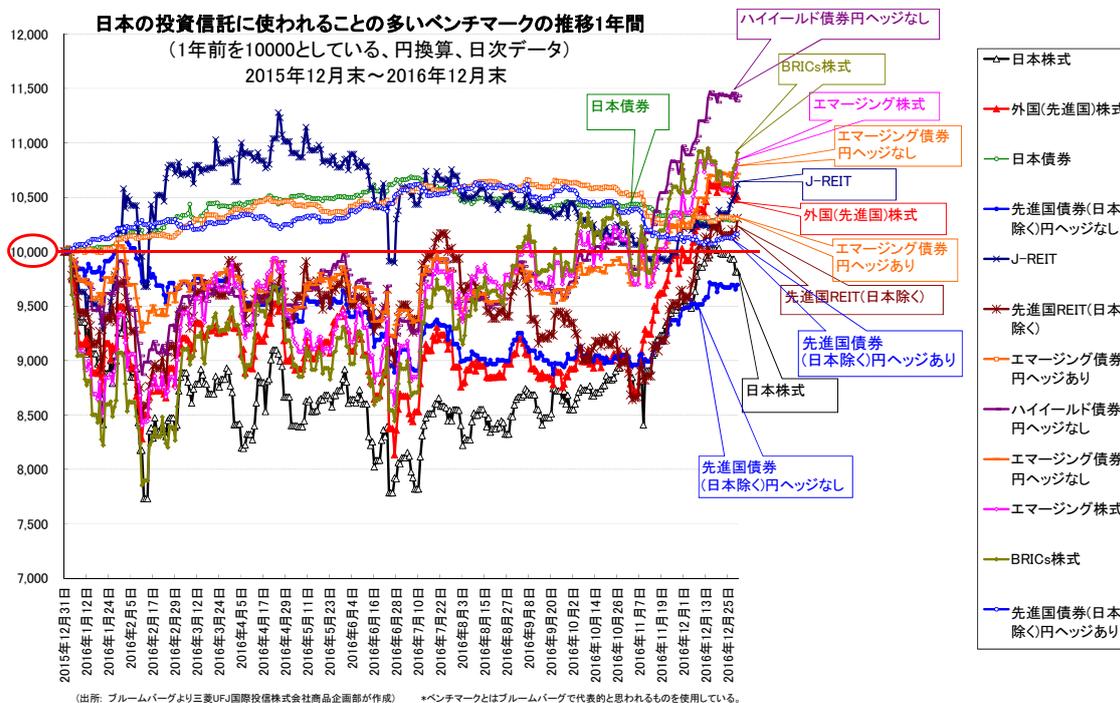


2016年10月まで8カ月連続の純設定額1位で2016年1月～10月に+2.4兆円の純流入となっていた不動産セクター株(REIT)は2016年12月の純設定額が-686億円と、投信全体と同様、2カ月連続の純流出で2年1カ月ぶりの大きな純流出だった。

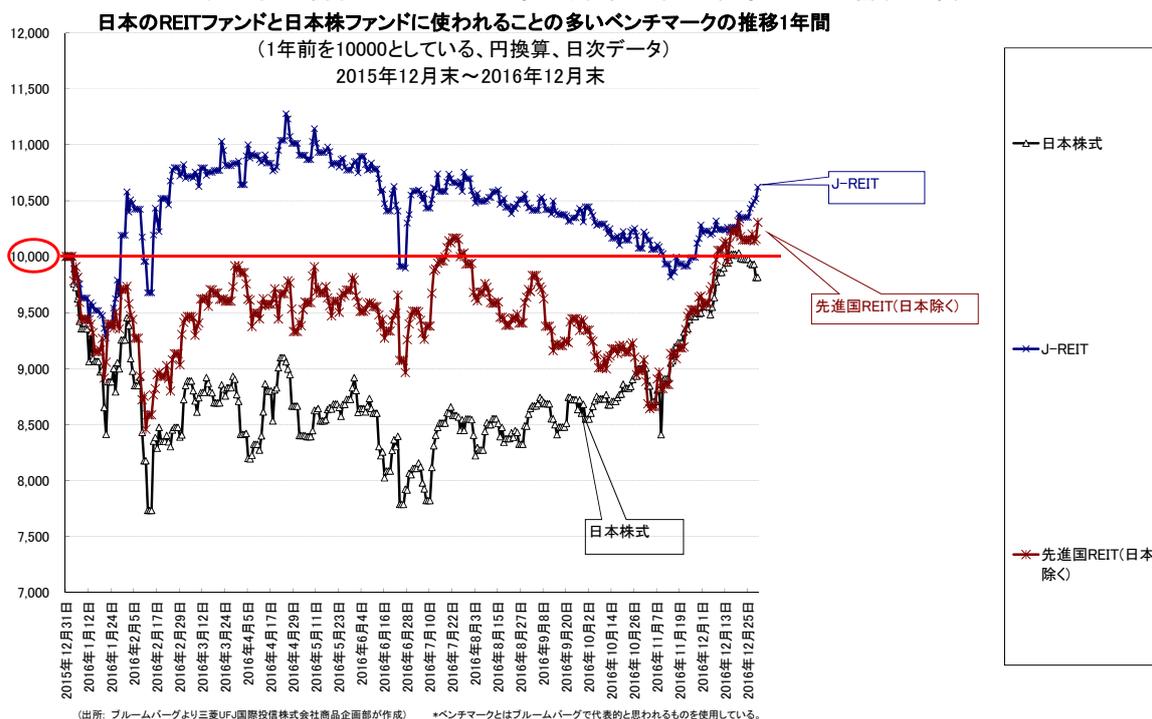
REITファンドの純流出の要因としては、国内最大のREITファンドが2016年11月に2012年12月以来の分配金引き下げをした影響が大きい。「高い分配金利回りを背景に投資資金を引き寄せてきた海外不動産投資信託(REIT)型投信が、大型ファンドの分配金引き下げを契機に資金流出に転じた。」(2017年1月12日付日本経済新聞夕刊～URLは後述[参考ホームページ])と言われ、「足元ではREIT型投信の人気に陰りが見え始めている。米国で長期金利が上昇し、金利低下を追い風にしてきた運用成績が低下。分配金の引き下げが相次いでいるためだ。」(2017年1月11日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ])と言われている。

一方、日本株は2016年12月の純設定額が-4771億円と6カ月連続の純流出で、2014年11月(-6839億円)以来の大きな純流出額となった。米大統領選挙(11月8日)後の株高をうけ年末にかけて利益確定の売りが大きかったと思われる。「日本の投資家は逆張り志向が強く、上昇相場時には利益確定の売りを優先する傾向がある。」(2017年1月7日付日本経済新聞夕刊～URLは後述[参考ホームページ])の展開である。

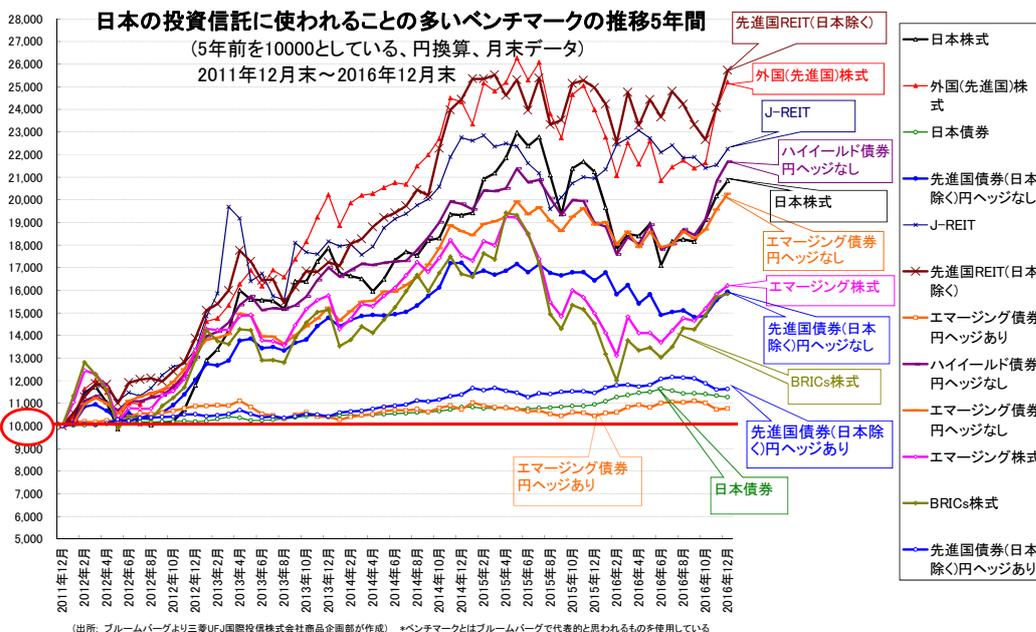
日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうだろう？ 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記グラフの通り、1年のパフォーマンスの好い順に、ハイイールド債円ヘッジなし、BRICs株式、エマージング株式、エマージング債円ヘッジなし、J-REIT となっている(\*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。前述した様に2016年12月の投信全体でアジア株(除く日本)、インド株、中国株などは純設定が大きかったが、パフォーマンスの好調さによるところもあろう。



先進国 REIT は、2016年6月末からの半年や同9月末からの3カ月では上記グラフのベンチマークで下から6番目だった。ただ、足元12月の1ヶ月で見ると最も好かった。日本株のパフォーマンスは1年で見れば、上記グラフのベンチマークで下から2番目だが、2016年6月末からの半年では2番目に好かった。

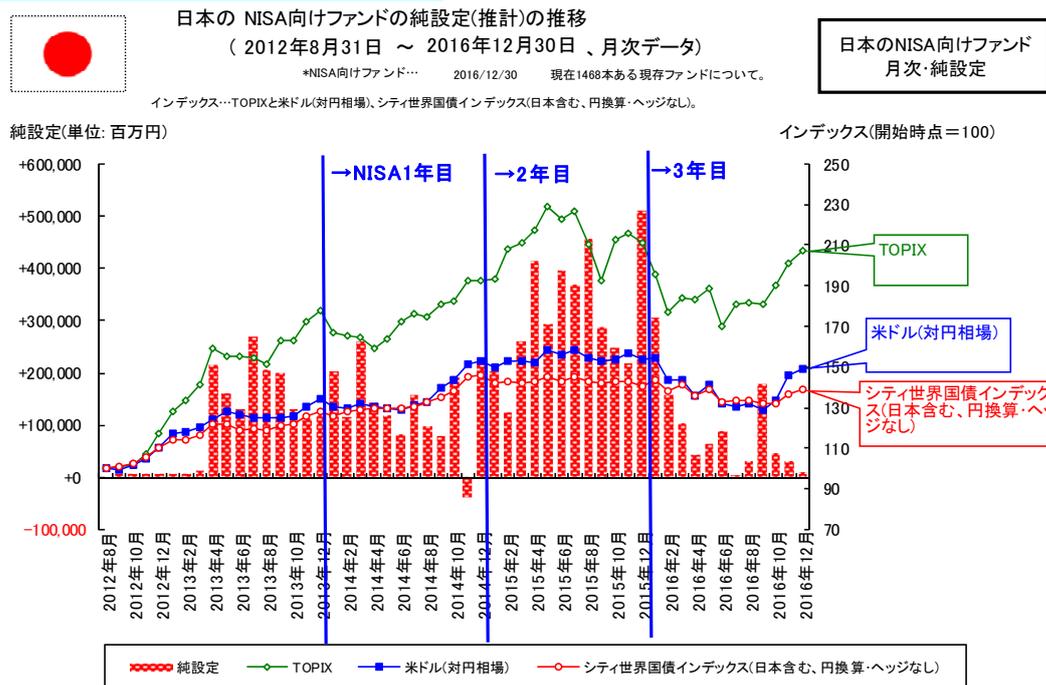


下記のグラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、J-REIT、ハイイールド債円ヘッジなし、日本株式となっている(\*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式のパフォーマンスは、2016年6月末からの半年で見ると、下記グラフのベンチマークで4番目によく、9月末からの3カ月で見ると最も好く、12月の1カ月では2番目に好いと、こうしたパフォーマンスの好きがグローバル株への人気につながっている様に見える。



## 2016年12月にNISAの新規投資家もグローバル株を志向

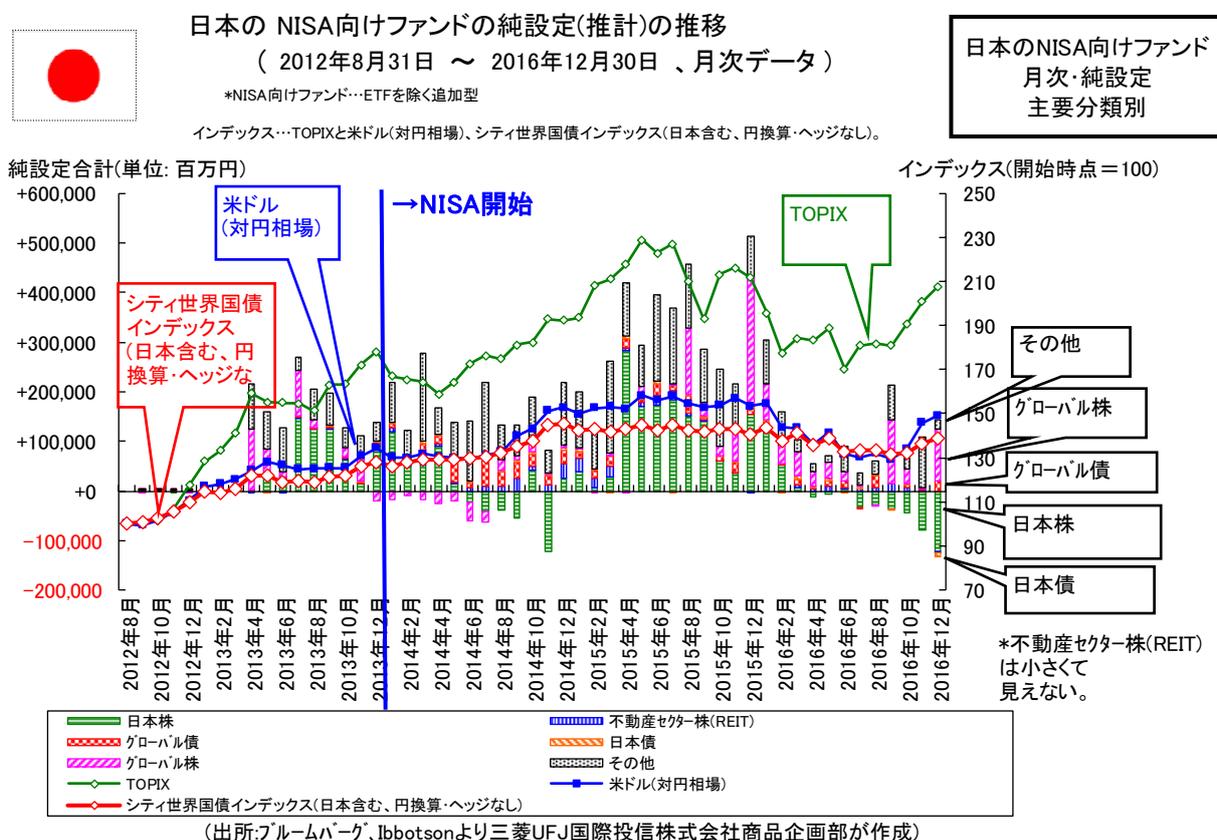
次に新規投資家を示すNISA向けファンドの純設定を見る。既存投資家の動向を示す投信全体では2カ月連続の純流出となったが、NISA向けファンドの純設定は、最新2016年12月は+93億円と前月11月の+298億円を下回り3ヶ月連続で減少、かろうじて純流入となっている。



※1: 「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(\*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(\*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2016 年 12 月 30 日時点で 1468 本となった。

投資対象(主要分類)別で見ると、**2016 年 12 月の純設定 1 位はグローバル株 (11 月 12 位)、2 位はアセットアロケーション柔軟型(同 3 位)、3 位はグローバル債 (同 13 位)だった**(下記グラフ参照。アセットアロケーションは「その他」に含まれる)。

投信全体と同様、NISA 向けファンドでも 2016 年 12 月に最も純設定が大きかったグローバル株は、2016 年 1 年間でも純設定は+5027 億円と最大で、2016 年 8 月を除き 1 年 8 カ月連続の純流入である。2 位のアセットアロケーション柔軟型は、2016 年の 12 月の単月、2016 年の 1 年間、2015 年の 1 年間いずれも 2 位となるなど、継続して純流入となっている。一方、日本株は、2015 年に純設定最大だったが、2016 年は 4 月頃から流出となり、12 月は-1217 億円と前月 11 月(-797 億円)から純流出が拡大、年間では-1667 億円と最大の純流出となっている。



## 2016年12月はネット証券の投資家もグローバル株を志向

最後に、各証券会社の集計結果を見る。2016年12月8日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA 口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

### <NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新 2016 年 12 月の NISA 口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト 10 を発表しており、1・5 位は日本株ファンド、2 位はグローバル株ファンド、3・4 位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(2・5 位はインデックスファンド)。前月 11 月は、1・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位は日本株ファンド、4 位は不動産セクター(REIT)ファンド(1・3・5 位はインデックスファンド)だった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週 12 月 26 日から 12 月 30 日までは、1・2 位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・5 位は日本株ファンド、4 位はグローバル株ファンド(4 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 11 月 28 日から 12 月 2 日までは、1・4・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位は日本株ファンド(2 位を除いて全てインデックスファンド)だった。

○最大手である SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 1 月 2 日から 1 月 6 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・4 位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・3 位はグローバル株ファンド、5 位は日本株ファンドとなっている(3 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 11 月 28 日から 12 月 2 日までの取引をもとにした NISA の投資信託・買付金額の 1・5 位はグローバル株ファンド、2 位はアセットアロケーションファンド、3・4 位は日本株ファンド(1・2・5 位はインデックスファンド)だった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、1 月 2 日から 1 月 6 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1・2 位は不動産セクター株(REIT)ファンド、3・5 位はグローバル株ファンド、4 位は日本株ファンド(5 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 11 月 28 日から 12 月 2 日までの NISA 投資信託・買付金額の 1 位はグローバル株ファンド、2・5 位は日本株ファンド、3・4 位は不動産セクター株(REIT)ファンド(1・2 位はインデックスファンド)だった。

### <ジュニア NISA 投資信託>

○SBI 証券は週間のランキングを発表しており、最新週 1 月 2 日から 1 月 6 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1 位は不動産セクター株(REIT)ファンド、2・4 位はグローバル株ファンド、3 位は日本株ファンド、5 位は国内債券ファンド(2・3 位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の 11 月 28 日から 12 月 2 日までの取引をもとにしたジュニア NISA の投資信託・買付金額の 1・5 位はグローバル株ファンド、2・3 位はアセットアロケーションファンド、4 位は日本株ファンド(4 位以外全てインデックスファンド)だった。

<NISA 積立~2017 年 1 月 10 日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2016 年 12 月の NISA 月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2 位は日本株ファンド、3・4 位はグローバル株ファンド、5 位はアセットアロケーションファンドとなっている(\*7~11 月と順位は同じ。1・3・4 位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、最新週 1 月 2 日から 1 月 6 日までの NISA 口座では、1・3 位はグローバル株ファンド、2・4・5 位は日本株ファンドとなっている(\*2 位以外全てインデックスファンド)。

**ネット証券では、不動産セクター株(REIT)の人気の再び見られるが、グローバル株が人気だった。**

**以上、2016 年 12 月に NISA で投資された先を既存投資家、新規投資家、ネット証券の順で見えてきたが、総じてグローバル株が人気だった。**

もちろん、今後を示すものではないが、こうした情報が iDeCo 及び 4 年目の NISA を検討する投資家の参考になれば幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

2016 年 9 月 30 日付金融庁公表の NISA・ジュニア NISA 利用状況調査(平成 28 年 6 月末時点)・・・

「 <http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20160930-1/01.pdf> 」、

2016 年 12 月 21 日付日本証券業協会公表の NISA 及びジュニア NISA 口座開設・利用状況調査結果(全証券会社)(平成 28 年 9 月末時点)・・・「 <http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/nisajoukyou.html> 」、

2016 年 5 月 27 日付金融庁公表の NISA・ジュニア NISA 利用状況調査(平成 27 年 12 月末時点)・・・

「 <http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20160527-1.html> 」、

2016 年 6 月 6 日付日本版 ISA の道 その 143「DC 改正法案成立! 日本の個人型 DC が米国 IRA と同じなら 5 年で(2021 年に)約 10 兆円!? ただ、米国の DC、そして DC 経由での投信保有の大きな転機が来ている可能性」・・・

「 [https://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_160606.pdf](https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160606.pdf) 」、

2017 年 1 月 12 日付日本経済新聞夕刊「資金流入額上位の海外 REIT 型 昨年 12 月は一転流出に投信番付」・・・

「 [http://www.nikkei.com/news/print-article/?R\\_FLG=0&bf=0&ng=DGXXKZO11577190S7A110C1ENK001&uah=DF\\_SEC8\\_C6\\_160](http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXXKZO11577190S7A110C1ENK001&uah=DF_SEC8_C6_160) 」、

2017 年 1 月 11 日付日本経済新聞電子版「マイナス金利下の資産運用 利回り追求リスク吟味

「変わり種」投信も登場」・・・「 <http://www.nikkei.com/article/DGKKZO11494410Q7A110C1PPE000/> 」、

2017 年 1 月 7 日付日本経済新聞夕刊「株高でも個人慎重 投信流入額、昨年は 9 割減 解約資金、新規投資回らず」

・・・「 [http://www.nikkei.com/paper/article/?b=20170107&ng=DGKKASGD21H80\\_X00C17A1MM0000](http://www.nikkei.com/paper/article/?b=20170107&ng=DGKKASGD21H80_X00C17A1MM0000) 」、

2016 年 12 月 2 日付日本経済新聞電子版「売れ筋の海外 REIT 投信、販売が変調」・・・

「 <http://www.nikkei.com/article/DGXMZO10117510Q6A131C1000000/> 」、

2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」・・・「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、

SBI 証券の NISA ランキング・投資信託・・・「 <https://www.sbisec.co.jp/> 」、

楽天証券の NISA ランキング・投資信託・・・「 [https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA\\_ranking](https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking) 」、

マネックス証券の NISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額・・・「 <https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales> 」。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

### 本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。